

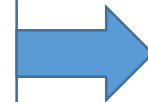
中山間地の比較優位を考えた持続可能性 —岡山県西栗倉村—

岡山大学大学院社会文化科学研究科・経済学部
中村良平

地域の中で、相対的に豊富にある地域資源に着目し、また人材を誘致し、まち（村）の振興に取り組んでいる例

キーワード

1. 村の地域資源：比較優位の発見
2. 雇用の創出：殖産
3. 地域商社の実現
4. 人材誘致の実現



これによって、ローカル経済循環を実現

「森の学校」のミッション：そもそもは都会との交流事業を目指した

- 住宅の総合商社
- 地域代理店
- 住宅販売

← スライド12～17に詳細

	取り組み例
島根県 海士町	・海産物に地元資源を活用した加工食品(さざえカレー) ・畜産物の移出(ブランド牛「隠岐牛」)
岡山県 西栗倉村	・豊富な森林資源を活用した基盤産業の創出、森林商社の実現
徳島県 上勝町	・料亭などで使われるつまものを販売する「葉っぱビジネス」
徳島県 神山町	・IT環境を活用し、都会のサテライトオフィスを誘致、人材も誘致 ・創造的過疎の実現を目指す

地域資源で域外マ
ネーを獲得



マネーの域内循環



人口維持(転入増
加)

=「地産外商」

西栗倉村の概要

- 岡山県の北東端に位置する
- 林業が基幹産業で、平成22年の第一次産業就業人口の約55%が林業就業者である
- 林業を軸とした「百年の森林事業」を行う

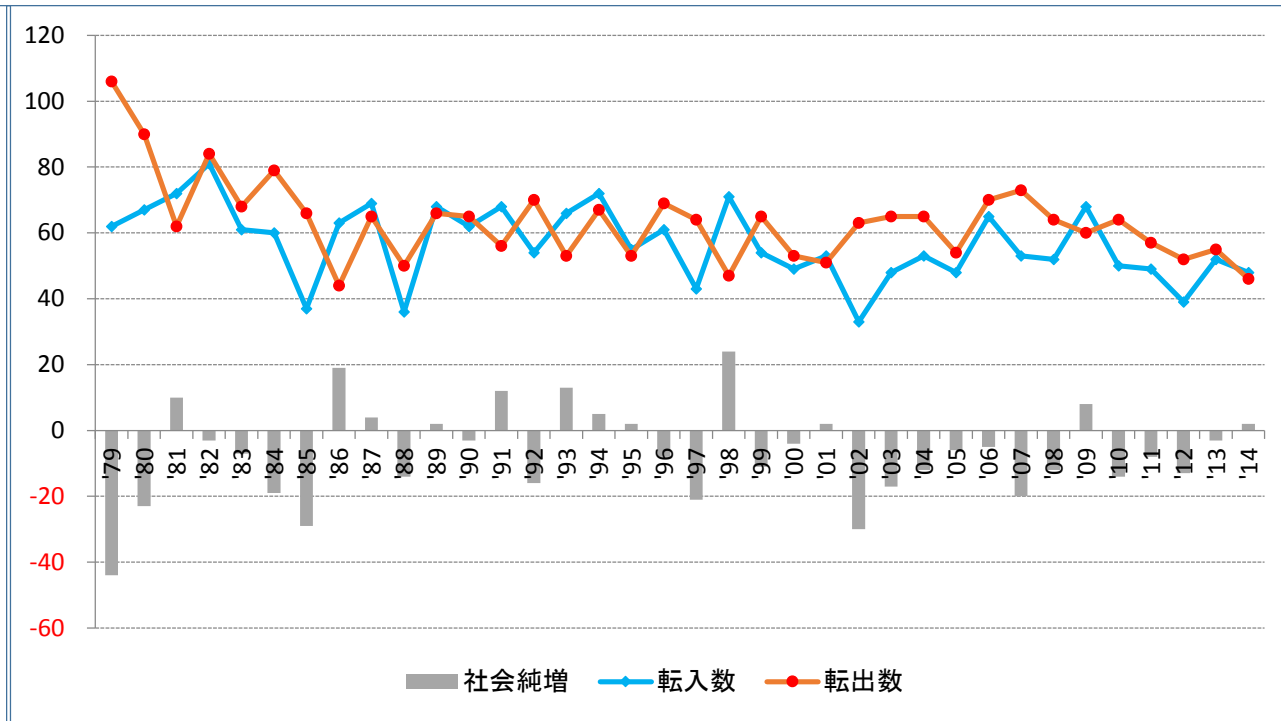
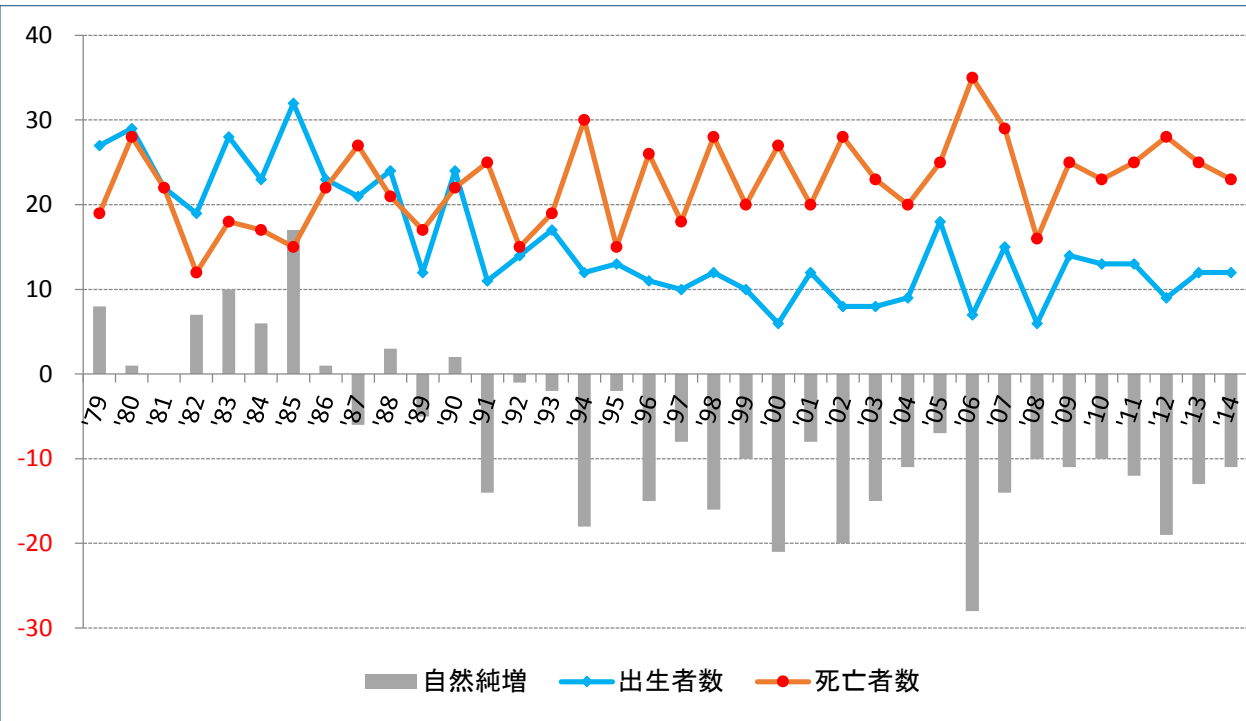
	西栗倉村
人口	1,537人(平成25年11月)
面積	57.93km ²
人口密度	26.53人/km ²
高齢化率	33.1%(平成25年11月)

出典：西栗倉村 森林から始まる村づくり



出典：Mapion都道府県地図

西栗倉村の人口動態



自然増減では、近年、死亡者数の減少と横ばいの出生者数が見受けられる。また社会増減では、直近で転入者数が転出者数をわずかながら上回っていることがわかる。がんばっている町村の多くは、こういった傾向にある。西栗倉村の場合は、「森の学校」への都会からの若い人の移住があることが、転入者数の増加の理由でもある。

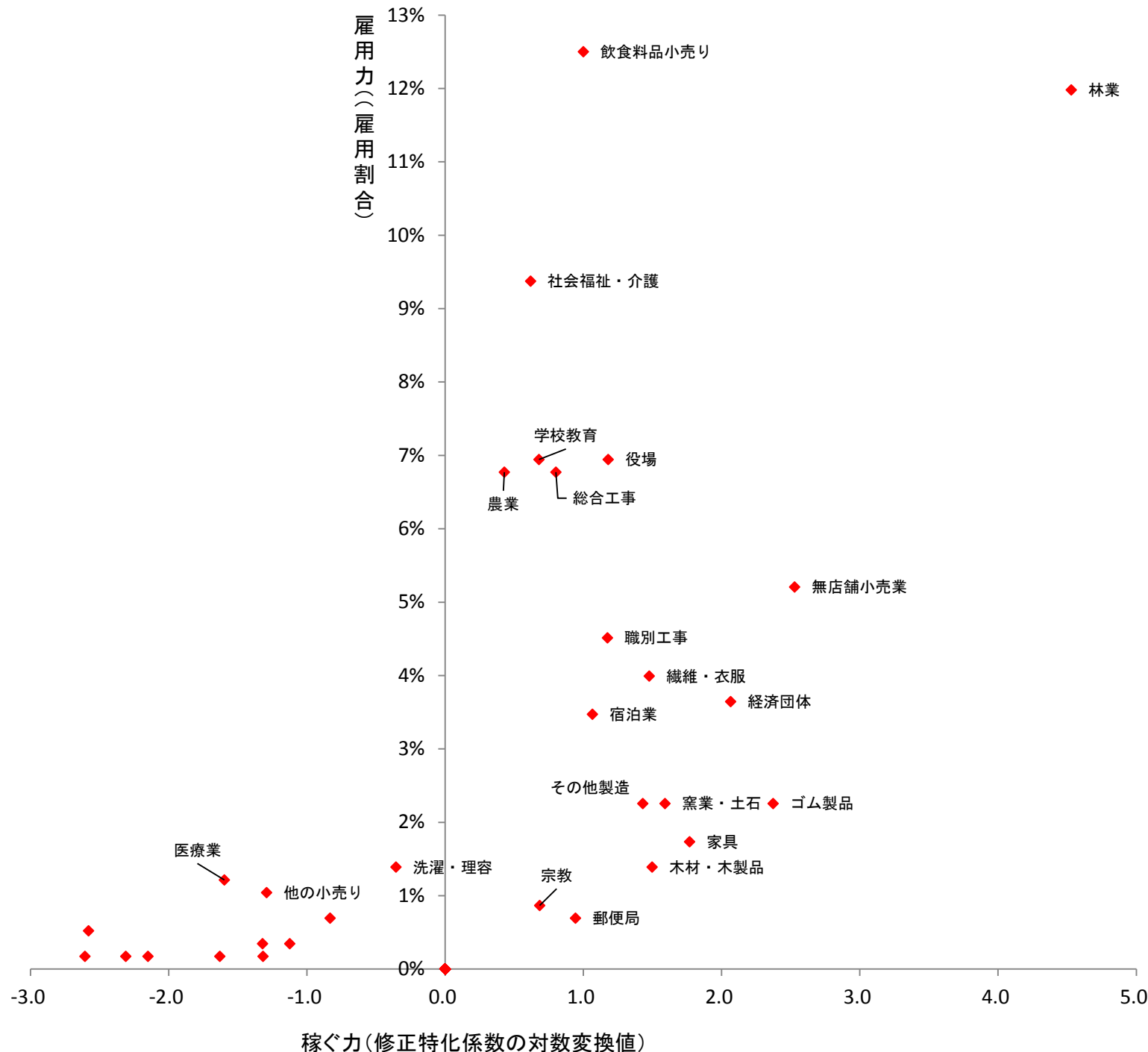
しかしながら、これも多くのがんばっている町村に共通のことだが、少々社会増加数えても、高齢化による亡くなる人の多さの影響が強く、人口が減少に向かっている。

こういったことから、まちづくり(都市計画)を産業振興に絡めて、若い人の誘致による社会増加数だけではなく自然増加への波及を狙う施策、また、中高年の移住によってまちで働く環境を考え出すことで、健康寿命の延び(死亡数の減少)を目指す必要がある。

西栗倉村の稼ぐ力と雇用力

横軸は、従業者の特化係数を全国自足率で修正した対数値
縦軸は、各産業のまちにおける従業者の割合

特化係数とは、ある産業の従業者の市の全従業者における割合を全国のそれで割ったもの。相対的な集積度を表す。
したがって、1.0(対数値では0.0)を超えている部分は域外への移出に対応する従業者数と解釈する。



出典)

民営について「経済センサス活動調査」(2012年)、公営については「経済センサ基礎調査」(2009年)の従業者数。

百年の森林(もり)構想

概要

- 2008年、道上正寿 前村長のもとで森林再生に資源を集中するという方針が固まる
- 50年前に植えられた森林を50年後の世代にまで繋げる(50+50=百年の森林)

百年の森林事業 {
・百年の森林創造事業
・森の学校事業

百年の森林構想が決まった背景

①平成の大合併で合併しない道を選択

- 2004年、合併で美作市ができる際に西粟倉村は村民の投票により合併を見送る
- 村の自立のために総務省の「地域再生マネージャー制度」を活用し、**アミタ(株)**とともに活性化のアイデアを模索

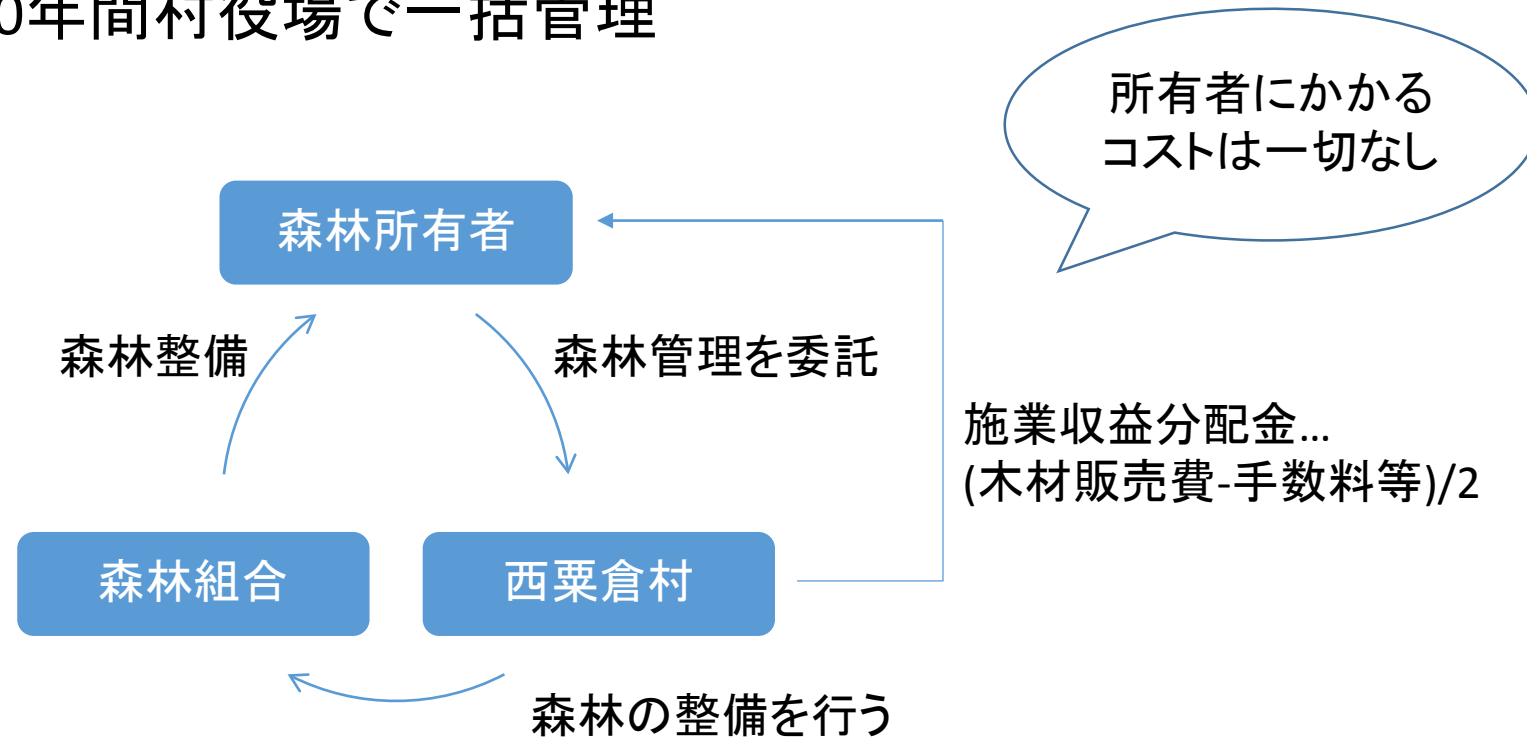
②森林という地域資源の存在

- 面積の95%が森林で、そのうち約8割が人工林
- 森の間伐には国からの補助金が出る

百年の森林創造事業①

長期施業管理委託

- 高齢化による担い手不足や木材価格の落ち込みにより放置される私有林が増加
→ 私有林を10年間村役場で一括管理



百年の森林創造事業②

FSC(フォレストック)認証森林の全村拡大

- 優れた森林管理の国際的評価となる「FSC認証」を一括管理する森林全体に拡大
- 木材の高品質の認知に繋げ、他地域との差別化を図る

間伐材の販売

※FSC認証

環境保全の面から適切で、社会的利益にかない、
経済的にも継続可能な森林管理に対し認証

森林のCO₂吸収量・生物多様性・森林の管理・経営
について審査



責任ある森林管理
のマーク

木の里公房木薫HPより

百年の森林創造事業③

アマタ(株)の子会社

共有の森ファンド

	共有の森ファンド2010
ファンド営業者	(株)トビムシ
ファンド対象資金使途	森林管理のための機械購入・FSC認証取得費用など
出資募集総額	49,400,000円(988口)※
出資募集単位	1口50,000円(上限10口500,000円)
募集受付期間	第1次募集:2010年6月25日～9月30日 第2次募集:2010年10月1日～12月24日 第3次募集:2010年12月27日～2011年3月31日
会計期間	2011年1月1日～2019年6月30日 (原則年に1回事業売り上げの分配)

ミュージックセキュリティーズHPより

※共有の森ファンド2009ですでに25,200,000円(504口)の募集が完了

「森の学校」事業① ← 「百年の森林構想」の中核を担う事業

(株)西栗倉・森の学校の概要

- ・ 村・民間企業・村民の出資で設立
- ・ 村の廃校をオフィスに構え、職員室は事務所、各教室は村に移住した職人や作家の製品が並ぶ「バイテン」になっている

設立	2009年10月1日
資本金	元は889万円 現在は2億1256万円
売上高	1,980万円(2010年12月期) 1億1,031万円(2012年12月期) 2億0,451万円(2014年12月期)
従業員数	27人(2015年4月)



ニシアワーHPより

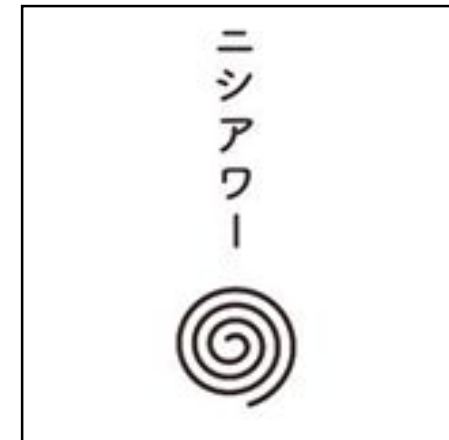
当初、村が100万円森林再生会社トビムシ(東京)が570万円、村内の融資76人が219万円

森の学校事業②

- 森林組合が切り出した丸太の乾燥・製材
- 木材加工品の製造・販売：森林商社機能
- モデル住宅建設・展示・販売
- 観光客・研修生の誘致や西粟倉ブランドを都会で売り出すアンテナショップ展開に取り組む：地域代理店機能

※ニシアワー

- 森の学校の運営するネットショップ
- 木材の加工品だけでなく、米や鹿肉などの村で取れた食料品なども販売



ニシアワーFBより

森の学校事業③

ユカハリタイル

- 森の学校の商品の一つ
- オフィス家具販売などで実績のある(株)文祥堂と連携
- 既存の床の上から簡単に貼れ、引っ越しの際にも持っていくことができる
- 2009年、農水省から「森林・林業再生プラン」が発表されたのを受け、東京都港区などで公共施設を中心に一定量の国産材活用が目標に
 - 港区以外でも国産材活用が期待される



ニシアワーより

森の学校事業④

ユカハリファンド

ファンド営業者	(株)トビムシ
ファンド対象資金使途	ユカハリタイルなどの原材料購入費など
出資募集総額	22,700,000円(454口)
出資募集単位	1口50,000円(上限10口500,000円)
募集受付期間	2012年9月14日～2013年9月29日
会計期間	2012年11月1日～2014年10月31日

ミュージックセキユリティーズHPより

森の学校事業⑤

住宅材供給の拡大

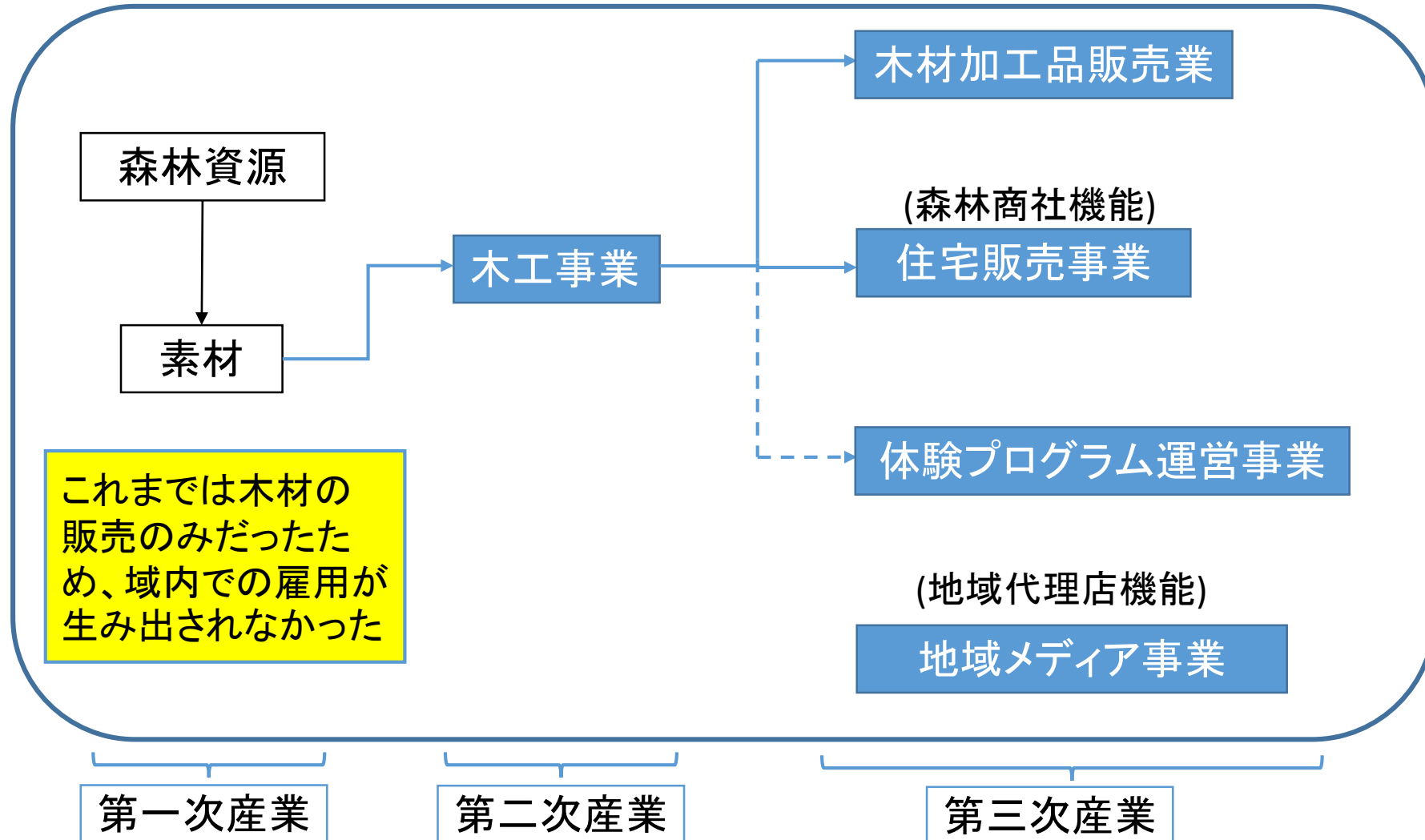
- 2012年12月、住宅建設会社アイワホームと資本提携
- 国産材ニーズの高まりを受け、約1億4000万円の投資で内装材の生産能力を2倍に高める
- 農林中央金庫と農林漁業成長産業化支援機構による6次産業化支援ファンドから約1億6000万円の出資を受ける方針
 - 六次化ファンドによる森林事業者への出資は全国初

村への取材：2015年5月27日

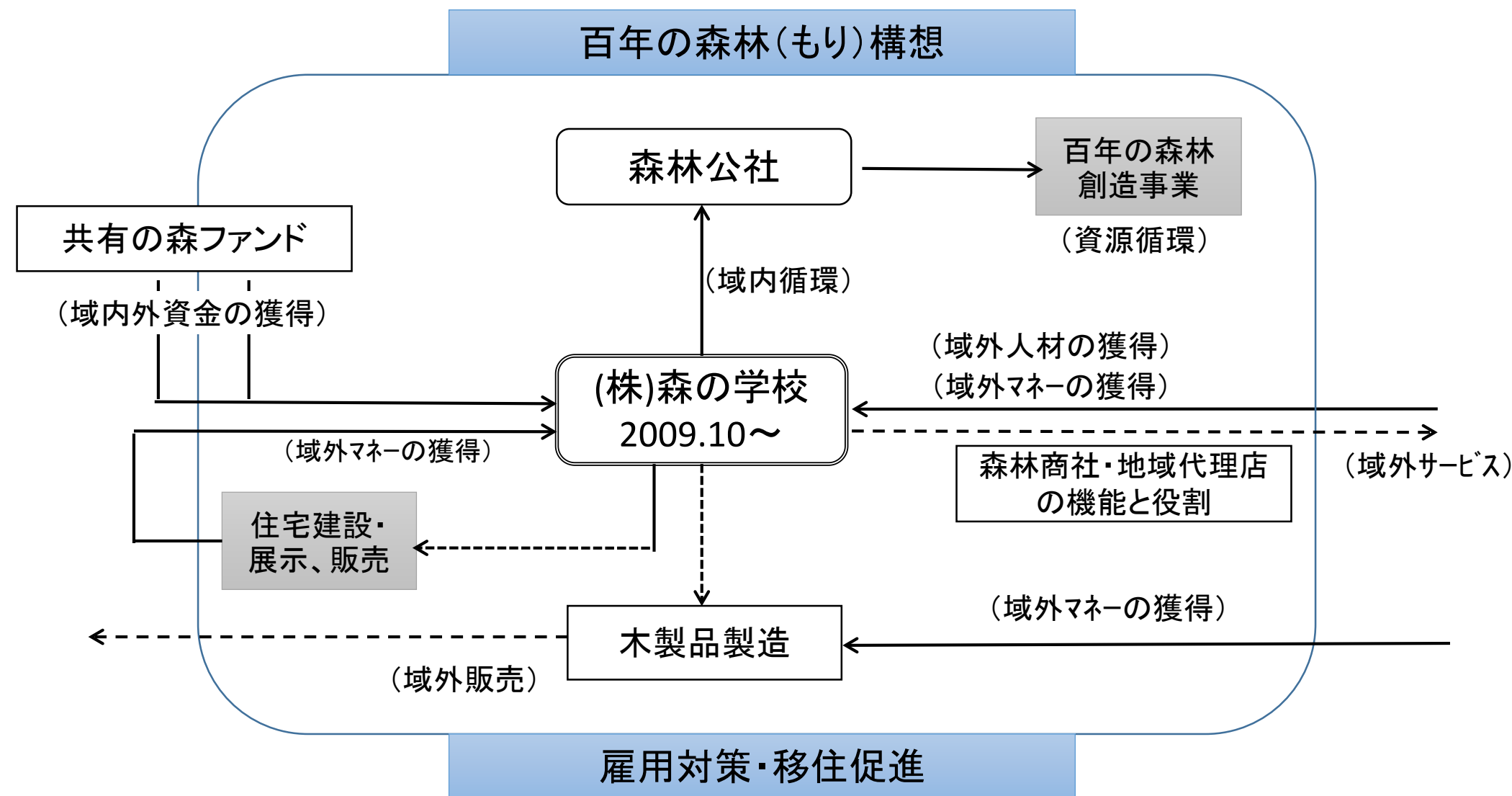
「住宅販売」は、まだ実現していません。住宅建築は、大量に木材を必要としますし、生産料、生産額を増大させ、大工、建具等々地域経済への波及効果が大きいので是非とも実現させたい部門ですが、実現していません。その理由は、①村内に建築士、工務店がないため、総合的に売り出していくことができない。②現在行っている間伐は、劣性木で住宅建築材には不向きである。やはり木がまだ若すぎる。あと最低10年は必要なのだと思います。③製材所が零細すぎて、受注のスピードについて行けない可能性がある。

森の学校事業⑥

林業の六次産業化



西栗倉村の地域経済循環



百年の森林事業の成果

- 2014年4月の段階で約1400haの森林の集約化が完了
- 長期管理委託協定が結ばれている森林では年間200～300haの間伐が実施
- 2012年、村の原木市場への出荷がほぼゼロに
- 2013年、森の学校が始めて単月黒字を計上
- 「森の学校」や家具などを作る「木工房ようび」などの起業により、2008年～2012年までで約50名がIターン

そのうちのほとんどは20～30代の若者で、住居は村が空き家を改修して家賃2万円程度で提供

百年の森林事業の課題

- 長期管理の契約目標私有林は約3000haであり、契約が完了している面積は半分に満たない
 - 小規模所有者も多く、一括管理をまとめられないと作業効率に悪影響
- 相当量の間伐材が林地に残されている

2012年度事業予定

	搬出間伐対象	切捨間伐対象	総間伐面積
私有林	40ha	160ha	200ha
村有林	25ha	55ha	80ha

出典：環境モデル都市提案書(西栗倉村)

Reflection 振り返ると

【うまくいったこと】

- 森の学校は、2014年度で初めて黒字化。
- 数々の試行をやったが、大半は失敗の連続。村で商社だけでは自立できない。地域に売り出す商品が少なすぎたから。
- 最近、色々な起業が生まれ、連携したり共同イベントしたりできるようになってきた。
- 会社の経営を支えているのは製材業。自社でヒット商品を製造販売できることが自立の近道。まずは、経営が安定して来たところがうまくいったところと言える。従業員も27人になり、目標の半分にまできた。
- 森の学校以外に木薫、ようびなど製造業の企業が誕生し、雇用を創出するようになった。ユニークな個人起業が次の雇用創出につながる可能性がある。

【要因】

- 森の学校が総合商社、地域の代理店として、村の売り込みを行ったことが、村の注目度をアップさせ、Iターン者の増加、発進力ある若者たちが波及的に村の知名度を上げている。

【シナジー】

- 現村長は、100年の森林事業の継承の他、観光事業の再生、環境政策にも力を注いでいる。環境モデル都市の指定など森林資源を活かした事業に取り組んでいる。
- 太陽光発電、小水力発電、バイオマスエネルギーの活用など、3年間で実現している。
- 公共施設に薪ボイラーを導入し、山林内にある残材を住民が運び出し、その材を買い取り薪として活用する域内通貨の発行を手がける会社(村楽エナジー)が創業するなど新たな森林関連企業も誕生している。

西栗倉村地域経済循環のアウトカム(KPI?)

■ミュージックセキュリティの共有の森ファンド額

2011年3月31日最終 4,940万円

■(株)西栗倉・森の学校の資本金額

2015年4月1日現在 213,557,500円

(うち西栗倉村1,000,000円、村民76人が出資(出資額不詳))

■(株)西栗倉・森の学校の業務、商品等

製材、木製品製造、移住・起業支援

■(株)西栗倉・森の学校の売上げ

204,510,000円(2014年12月期)

■村に誕生している起業等

【森林・木工】

- ・美作東備森林組合(西栗倉事業所) 従業員数20人
- ・(株)木の里工房 木薫 従業員数15人
- ・(株)ようび 従業員数7人

【環 境】

- ・(株)村楽エナジー 従業員数3人
- ・ソメヤ・スズキ (個人事業主)

【食品・レストラン】

- ・ABURABO(あぶらぼ) (個人事業主)
- ・酒うらら (個人事業主)
- ・難波邸 (個人事業主)

【宿泊・レストラン】

- ・軒下図書館・西栗倉 (個人事業主)
- ・元湯 従業員数3人

【I T】

- ・ようび
- ・スズキ (個人事業主)

【その他】

- ・三味線の張替え、漆塗り (個人事業主)
- ・NPO法人 じゅ〜く (障害者B型作業所)
従業員数10人

参考文献

岡山県 西栗倉村100年の森林(H26.5.7当時)

URL: <http://nishiawakura-fan.jp/index.html>

森林から始まる村づくり(H26.5.7当時)

URL: http://www.nissay-midori.jp/knowledge/pdf/data_140201_01.pdf

共有の森ファンド(H26.5.7当時)

URL: <http://www.tobimushi.jp/>

西栗倉村のご紹介(H26.5.8当時)

URL: http://www.tobimushi.jp/_common/pdf/nishiawakura_summary.pdf

ニシアワーHP(H26.5.8当時)

[URL:http://nishihour.jp/](http://nishihour.jp/)

読売新聞(H24.6.14～19)地方を生きる第15部①～⑥

日本経済新聞(H26.5.10)西栗倉・森の学校、地元木材の内装材増産